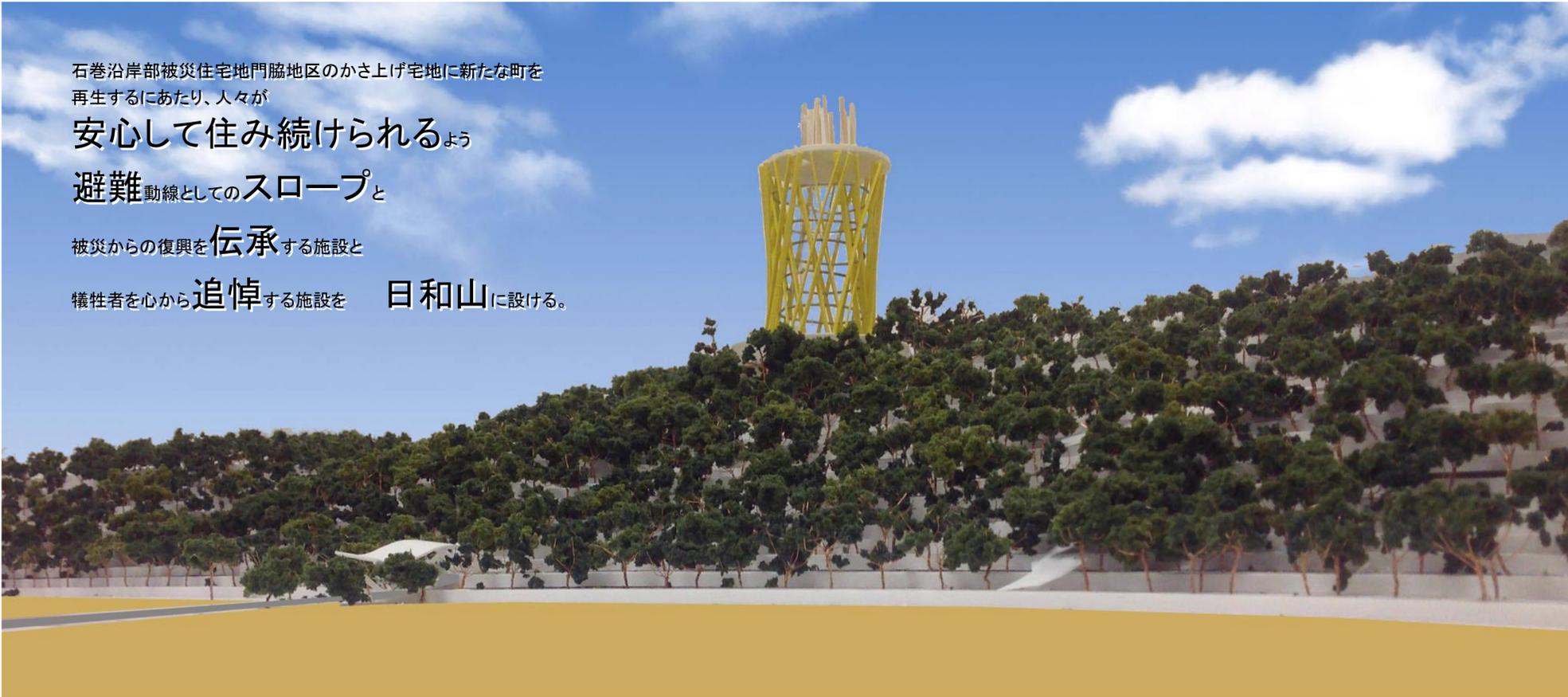


未来へ

～石巻被災住宅地避難・伝承・追悼施設～



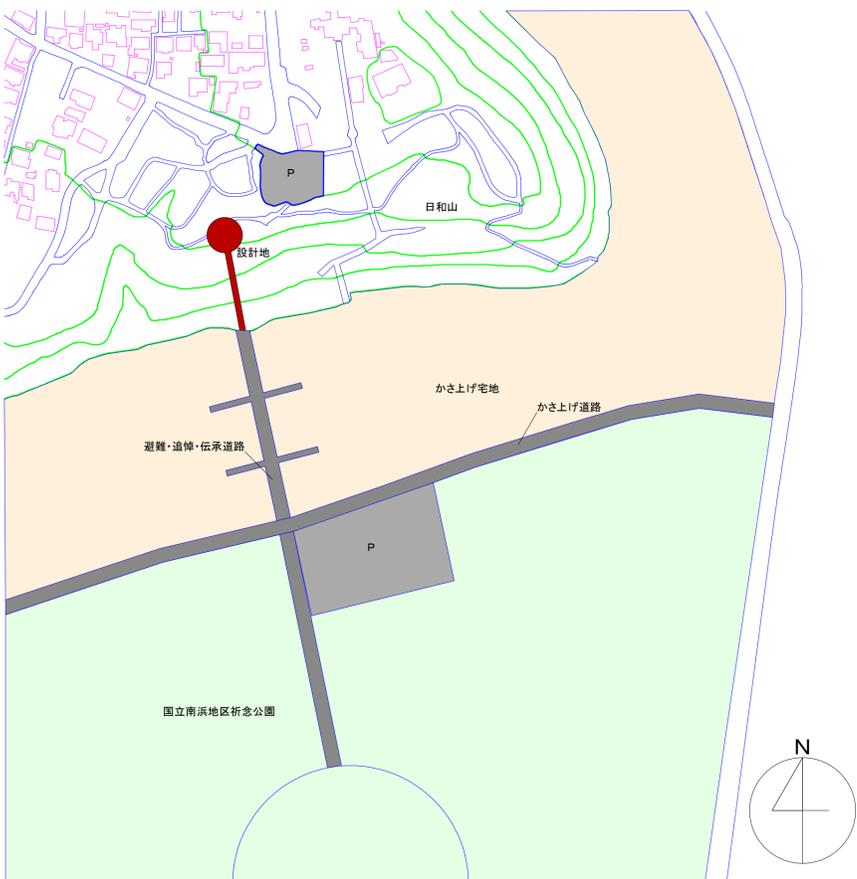
石巻沿岸部被災住宅地門脇地区のかさ上げ宅地に新たな町を再生するにあたり、人々が

安心して住み続けられるよう

避難動線としてのスロープと

被災からの復興を伝承する施設と

犠牲者を心から追悼する施設を 日和山に設ける。



配置図 1/3000

避難

震災時に命を守るために避難導線を、お年寄りや障害者の方々でも避難しやすい緩勾配の螺旋スロープとし、生活通路としても活用される。

11本の柱に向かい震災被災者を心から追悼する。一望できる海、街並みは、震災に思いをめぐらせる。

心の再生

震災当時におきたこと、そしてどのように乗り越え復興へと歩んだかを建物の下から過去～現在へ時間軸によって施設内で表現。

追悼

伝承

タワー最上部にある11本の柱は追悼のシンボルで木の風化が記憶が風化することを警告し、伝え続ける。

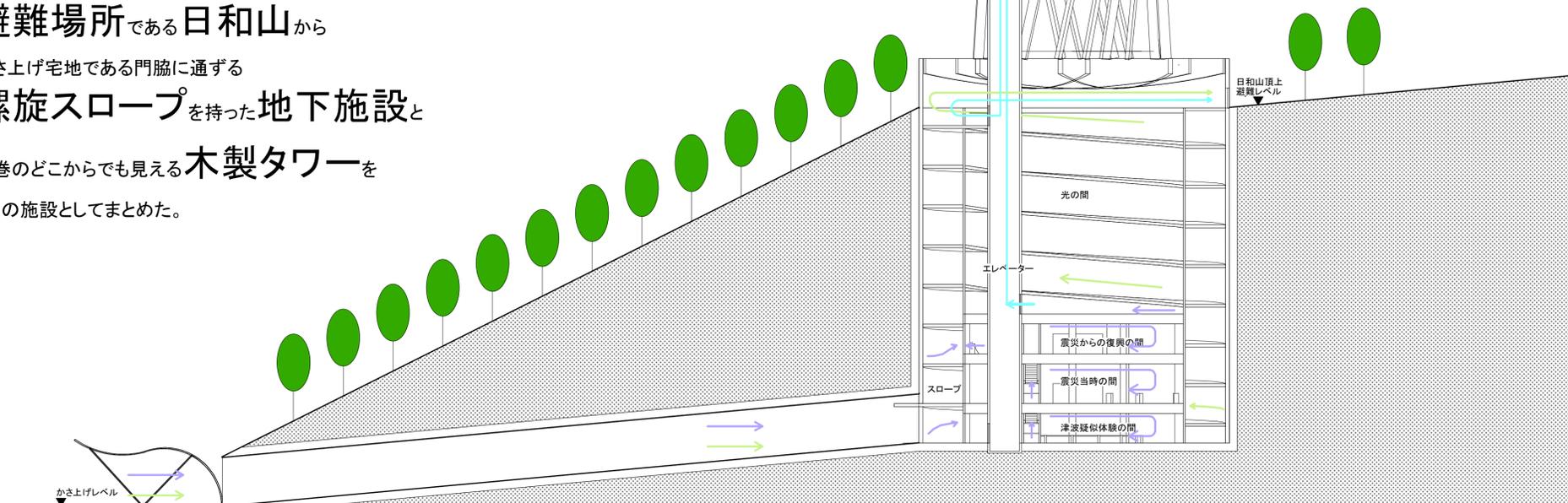
避難場所である日和山から

かさ上げ宅地である門脇に通ずる

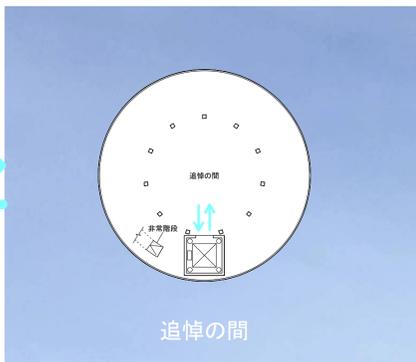
螺旋スロープを持った地下施設と

石巻のどこからでも見える木製タワーを

1つの施設としてまとめた。



断面図 1/300

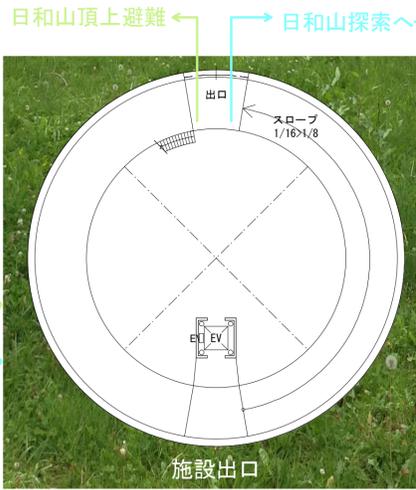


展望の良いタワー最上部は、
ガラススクリーンに囲まれ、
震災に思いを巡らす

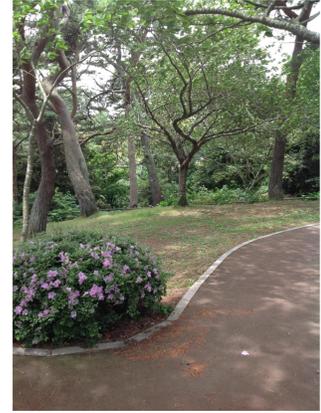


新たな
門脇が
動き出す。

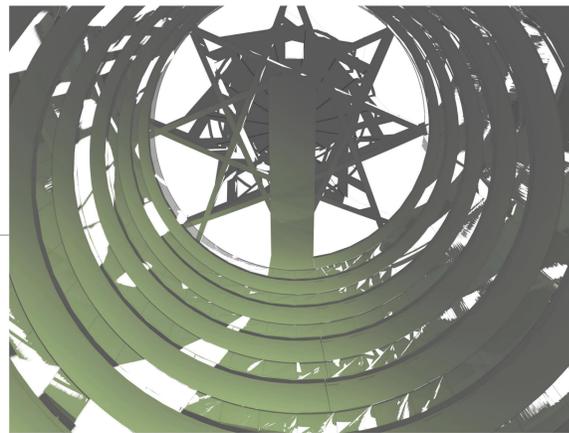
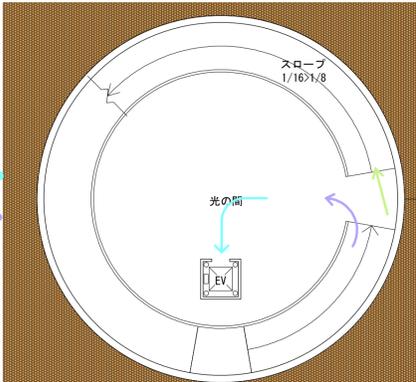
この施設によって未来の門脇がより良い町になるため



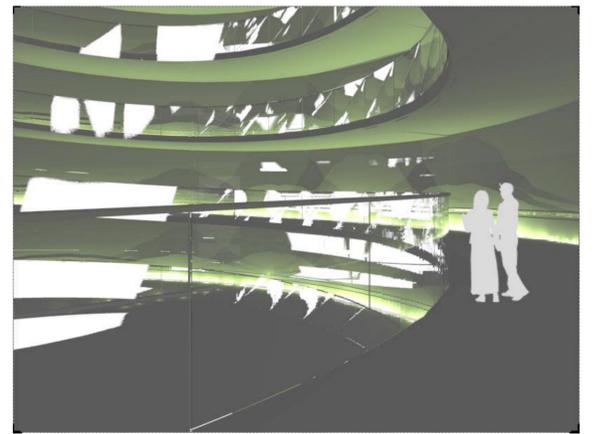
日和山山頂は避難場所であり
追悼施設から観光地へ人々を導く



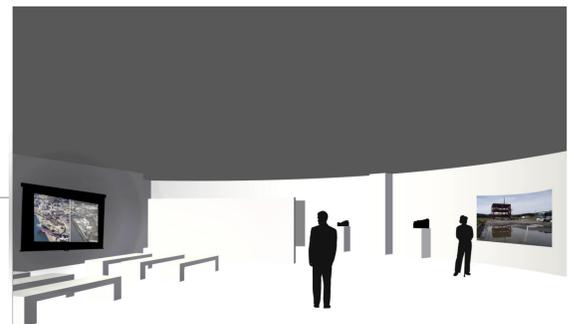
遊歩道で探索も可能



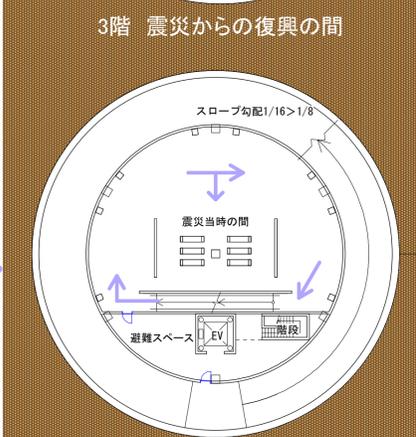
地中の伝承施設屋上は、螺旋スロープに囲まれた
光の空間。ここよりEVで追悼の間へ



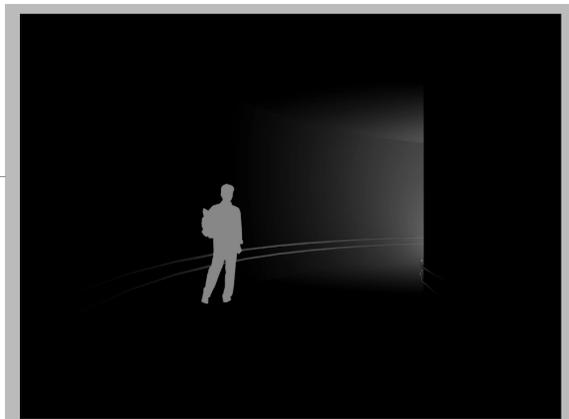
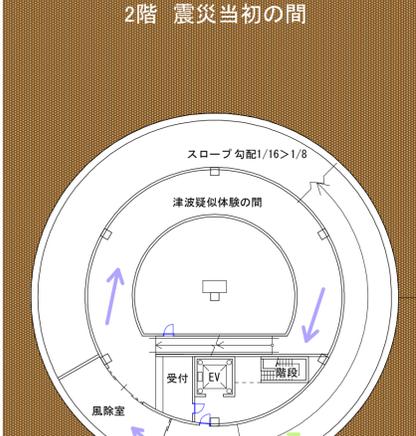
直径が30mの筒状の構造物。
螺旋スロープが緩やかに登っていく



被災から復興へ歩んで行ったのかを知り、
希望を抱き伝承施設をでる



どのくらいの被害だったかをレプリカやシアターで表現

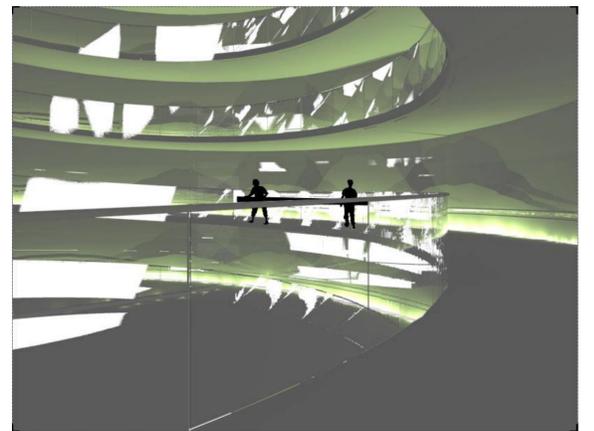


体験者が語った「黒い壁」が襲ってくるを再現し、
明日への希望の光へ向かう

御柱祭り

「木の風化」＝「記憶の風化」

最上階「追悼の間」にある11本の木柱を1年に1本ずつ
地域住民たちで建て替える祭りを行う。木の特性である「風化」を
生かして年ごとに立て替えた木の風化の程度の違いを見せて
時間の流れを表し人々に時間が過ぎても震災を忘れないようにと
意味を込めた祭りとなっている。祭りが震災の記憶の伝承を
確かなものとする。



柱は住民が協力して中のスロープを通し追悼の間へ



1年に1本ずつ立て替える